

## 保育計画成果報告書

法人名等	株式会社チャイルドケア二四
施設名	栗林にこにこ保育園
報告者（役職）	高木亜由美（保育士）
住所・連絡先	香川県高松市栗林町二丁目 3-2
	☎ 087-831-1319
	E-mail r-nikox2@ozzio.jp

### ○タイトル（保育計画）

せまくても大丈夫！毎日楽しくサーキット運動

### ○主な助成備品

フワフワランド・マット・鉄棒・椅子

## 1. 保育計画策定の目的

栗林にこにこ保育園は、平成 28 年 4 月に民家を改装し開園した小規模保育園です。

そのため限られた広さの保育室と小さな園庭が子どもたちの遊び場となっています。近くに公園はあるものの乳児や 1 歳の月齢の低い子どもたちには遊具での遊びはまだ難しく遊びがかなり制限されてしまっていました。また、雨の日には室内での活動となるため体力のある 2 歳児の子どもたちにとっては、体を使う遊びを十分に行っても、まだまだ遊び足りないといった様子や体力が有り余っているような姿が見られました。そのような状況から 0, 1, 2 歳児の異年齢保育でも楽しむことができ、遊びながら体力や筋力運動能力が身に付いていく環境を提供したいと考え、今回の購入を希望しました。

## 2. 具体的な実施内容

- I ①異年齢でのサーキット遊び
- ②囲いを使ってコーナー遊び
- ③階段や椅子などは日常的に使えるように部屋に常置

### ①異年齢でのサーキット遊び

サーキット遊びは並び方を変えることでなん通りものサーキットができ何度遊んでも飽きることがありません。乳児はずりばいやハイハイ、つかまり立ちで、1歳児は保育者と手をつないだり、不安定なところはしゃがんで手をついて進んだり2歳児はバランスを上手に取りながら歩いたり、友だちとルールを作って遊んでいます。



### ②囲いを使ってコーナー遊び



絵本を読んだり、ブロック遊びなどをする時に囲いを作るだけで、他の遊びをしている子に邪魔されることなく落ち着いて遊ぶことができます。

③階段や椅子などは日常的に使えるように常置

階段は部屋の窓際に常置し何度も登り降りしており、遊びながら足の力がついたり、足の運びが日に日に上手になったりしています。



隣の本箱から好きな絵本を選び椅子に座って集中して読み進めています。お集りの時間には椅子に着席してここで保育者のお話を聞いたり、絵本を読んでもらったりします。



II Aちゃんの3ヶ月ごとの変化

H28.12.15 遊び始めた当初のAちゃん(1歳5か月)



時間をかけて少しずつ斜面を登っていきます。

途中で何度も滑り落ちてしまいましたが、諦めることなく繰り返し挑戦し最後には登りきることが出来ました。



坂を滑る降りる時は、前向きで滑るのは怖いようでお腹を下にしてうつ伏せになりゆっくり滑り降りています。

### H29.3.3 3か月後のAちゃん(1歳8か月)の様子

斜面を前向きで滑れるようになりました。

スピード感とスリルが気持ち良いようで何度も登っては滑ってを繰り返しています。両手でバランスをとりながらまっすぐ安定して滑ることができています。

歩行が少しずつ安定し、保育者に手をつないでもらい階段の登り降りを楽しんでいます。

遊びを通して段差を登り降りする練習ができバランス感覚もよくなり、スムーズに登り降りができています。



H29.6.22 6か月後のAちゃん(1歳11か月)の様子



友だちに「どうぞ」と道を譲ったりコミュニケーションをとったりしながら遊んでいます。

歩行もしっかりしているのでほぼ立った状態で高さのスリルを楽しみながら遊んでいます。

階段も素早く降りられるようになりました。平均台は渡りきると達成感があるようで少し難しいことに挑戦したいというこの時期の発達にもふさわしい遊びとなっています。

### 3. その成果と評価

0歳児・・・マットの上でずりばいをしたり、トンネルをハイハイでくぐったり、つかまり立ちをして歩く練習をしたりとマットの上ということで安全に自由に体を動かすことが出来ています。

1歳児・・・体を上手に使って階段や斜面を昇り降りしたり少し難しいことに挑戦し、出来た時に達成感を味わったり、保育者や友だちに「すごいね」と認められ自信につながっているようです。またマットの上に転倒することもあるがその経験から転倒時の受け身の仕方や手の付き方が上手くなっています。高さのある所を歩いたり、斜面をすべり台のように何度も滑ったりすることで平行感覚も優れてきたように思います。

2歳児・・・自分たちでルールを決め、友だちと一緒に遊びをどんどん展開していく姿が見られます。また、順番があることを知り、守ったり、友だちに「順番だよ」と声をかけるなど社会的なルールも遊びを通じて身に付いてきています。そしてできないことでも諦めず何度も繰り返し挑戦することで、出来るようになるということが実感できるようになったと思います。

### 4. 今後の課題と展望

今後も助成備品を様々な活動に取り入れていき、子どもたちの体と心の育ちをサポートしていきたいと思います。そして、子どもたちの心が大きく作られていくこの大切な時期に成功体験をたくさん経験させてあげたいと思います。近くで寄り添い「できたね！」

「すごいね！」と子どもたちの頑張りを認め、自己肯定感を育ててあげることも保育者の大きな役割であることを改めて感じさせられました。 以上